

脳卒中とは

脳の血管病の総称です。脳の血管が詰まって脳組織が働かなくなる脳梗塞、脳の血管が破れて脳組織を壊してしまう脳出血、そして、脳動脈瘤が破裂して脳の表面に出血するくも膜下出血の3種類です。

それぞれの発症の割合は、おおよそ脳梗塞 60%、脳出血 30%、くも膜下出血 10%です。最近では治療の進歩により、その死亡率は年々減少傾向にあります。日本における死因としては4番目に多く、また後遺症を残す可能性が高いため、要介護になる疾患としては、認知症に次いで、第2位となっています。



脳梗塞とは

脳の血管が血の塊(血栓)や動脈硬化で閉塞し、その血管が栄養する領域が壊死してしまう病気です。

1 脳梗塞は突然起こります

残念ながら、予兆はありません。発症したら、時間とともに脳細胞の壊死は完成に向かいます。すぐに気づいて、すぐに救急車を呼ぶ必要があります。合言葉は「ことば、かお、うで」で、これらに突然、変調がみられたら、救急車を呼びましょう。



「ことば」

「かお」

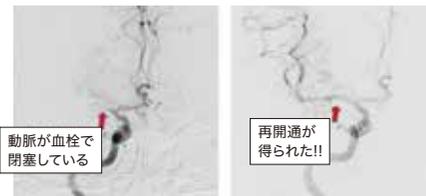
「うで」

2 有効な緊急の治療があります

- tPA(アルテプラゼ)静注療法:血栓を溶かす薬を用いた治療です。発症4.5時間以内に投与することが必要ですが、発症時間が不明でも、画像判断で投与可能な場合もあります。



- カテーテルによる脳血栓回収療法:足の付け根から挿入したカテーテルを大動脈内、脳血管とすずめ、脳血管を閉塞させている血栓をステントという器具で捕まえ、体外に引きずり出す治療です。



動脈が血栓で閉塞している

再開通が得られた!!

3 脳梗塞の発症率は下げることができます

予防は可能です。最も重要なことは血圧管理で、一般的な降圧目標は130/80mmHg以下です。脳卒中も心臓病も適切な血圧管理が最も有効な予防の手段です。

脳出血とは

脳内の動脈が破れることで脳内に出血する病気です。脳内に出血した血液は、やがて血腫となり、さらに時間が進むと脳にむくみを生じます。

1 脳出血も突然起こります

「ことば、かお、うで」ですぐに気づき、救急車を呼びましょう。

2 予防も緊急治療も血圧管理が重要

脳出血の原因は高血圧です。血圧管理が最大の脳出血の予防法です。そして、脳出血を生じた後も厳重な血圧管理が行われます。

3 命に関わるほど大きな脳出血は手術

脳出血は100人中10人が亡くなる重大な病気です。命の危険がある脳出血は、血腫を取り除く手術をすることがあります。

くも膜下出血とは

原因の80~90%は脳動脈瘤と呼ばれる脳の動脈にできた「こぶ」の破裂です。脳の表面に出血します。



1 くも膜下出血は突然の激しい頭痛

これまで経験したことがないような激しい頭痛が起こります。その激しさは「雷鳴様頭痛」と言われるほどです。それに伴って嘔吐することも稀ではありません。

2 くも膜下出血を発症したら 安静、鎮静が重要

くも膜下出血の急性期で大切なことは、色々な刺激を避け、安静にすることです。鎮痛薬や鎮静薬も使いますが、これは、一旦、止まった出血が、再出血することを予防するためです。一度、再出血すると2人に1人は死亡します。

3 切らない手術と切る手術

手術方法は開頭クリッピング術(切る手術)とカテーテルによるコイル塞栓術(切らない手術)があり、患者さんの状態に応じて治療法を選択します。破裂していない脳動脈瘤が見つかった場合は、予防的に手術を行うことも可能です。

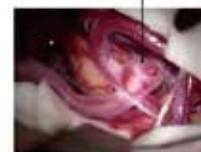
開頭クリッピング術



コイル塞栓術



脳動脈瘤



脳動脈瘤用クリップ

